		専門学校	交 │ 開講年度 │令和02年度 (2	1020千/支) 1	受業科目_	総合理科Ⅱ					
科目基础	定情報	Poses	0.5	NDE ()	60. / N	likt					
科目番号 授業形態		R02E3 授業	05	科目区分 単位の種別と単位数	一般 / 必履修単位						
成果形態 開設学科				対象学年	3	. 1					
開設期		後期	J 12711	週時間数 2							
教科書/教	対材	(教科	書) 家正則・他15名「新編地学基礎」 訂版 リードlight ノート地学基礎」数研旨								
担当教員		牧野 俳	<u>-</u> i義								
到達目	票										
(1)地 造とその 試験と課	球が太陽系の 活動について 題) (4)	D1つの惑星 て理解して 地球の環	星であり,我々を取り巻く環境としての地いる(定期試験と課題) (3): 境問題と日本で起きる自然災害の仕組み	^{也球を理解できる(定期 地球を取り巻く大気と》 を理解する(定期試験る}	試験と課題 毎洋の構造を ヒ課題)) (2)地球の内部 注知り, 気象現象を理解できる(定則					
ルーブ!	リック			1							
			理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの		未到達レベルの目安					
評価項目	1		地球が太陽系の1つの惑星であることを理解し、地球環境について大域的に議論ができる.	地球が太陽系の1つの , 地球を取り巻く環境 る.	惑星であり が理解でき	地球が惑星であることが理解できず, 地球環境とむつびつけられたい.					
評価項目	2		地球の内部構造と, その活動の現れであるプレートテクトニクスが 説明できる.	地球の内部構造とプレ ニクスが理解できる.	/ートテクト	地球の構造が理解できない.					
評価項目	3		地球大気と海洋を理解し、これらと関連付けて気象現象を説明できる。	地球大気と海洋, 気象 できる.	現象を理解	地球大気や海洋の成り立ちがわれらない.					
評価項目4			環境問題を地球的観点から理解し 、また日本の自然災害についても 評価ができる.	環境問題と日本の自然 できる.	災害が理解	環境問題も日本の自然災害についても理解できない.					
学科の発	到達目標項	目との		•		•					
	育目標 (B1)										
教育方法	•										
概要		授業時 AE教育 RM教育	問題について議論する. (科目情報) 授業時間:23.25時間 AE教育対応科目, RM教育対応科目								
授業の進め方・方法		いので , (総合評 総合評 (再試	総合理科Ⅱは半期しかなので,基本的な重要事項を理解し,全体の流れを把握することに努める.計算問題はあまりないので,重要事項を覚え,それらのつながりを考えていきたい.平易な参考図書を用いて予習と復習をしっかりして 授業内容のつながりを大切にしてもらいたい. (総合評価) (総合評価 = (2回の定期試験の平均点)×0.8 +(課題の平均点)×0.2 (再試験について) 再試験は,総合評価が60点に満たず,課題提出60%以上の者に対して行う.								
注意点		講義の 課題は (自学	(履修上の注意) 講義の途中でもわからなくなったらすぐに質問すること、 課題は、期限を過ぎ解答を配った後も受け取るが、無効とする。つまり評価点は0になる。 (自学上の注意) 受講後は、十分時間をかけて復習すること。								
評価											
授業計画	画										
		週	授業内容	週ご	との到達目標	=====================================					
後期		1週	太陽系の天体	太陽: 解す		な天体によって構成されているか					
		2週	太陽系の誕生と地球の進化	太陽系の中の一天きる.		は体としての地球とその進化が理解					
		3週	地球の構造(1)	地球	地球の物理量が理解できる.						
		4週	地球の構造(2)		地球の内部構造が理解できる.						
	3rdQ	5週	プレートの運動	の現	プレートテクトニクスと, それに伴って起きる の現象を理解できる.						
		6週	地震と地殻変動	関連	地震と地殻変動が分かり,プレートテクト 関連を理解できる.						
		7週	火山		火山の特徴と, プレートテクトニクスとの関連 できる.						
		. —		大気の構造を把握							
		8週	地球の勢収支	大気.	の構造を把想	屋し,地球の熱収支が理解できる.					
		8週	地球の熱収支 後期中間試験	大気の	の構造を把扱	屋し,地球の熱収支が理解できる.					

わからなかった部分を把握し理解できる.

大気が循環していることを知り,気象現象と結びつけることができる.

後期中間試験の解答と解説

大気と海水の運動(1)

10週

11週

4thQ

		12ì	<u>.</u> 週 大気		と海水の運動(2)			海水が循環していることを知り,その原因を理解できる.			
		13週		地球環境の科学		地球環境の問題と人間活動と			この関係を理解できる.		
		14ì	14週 日		日本の自然環境			日本の自然環境を知り,火山災害と土砂災害の様子 理解する.			災害の様子を
		過 後期		期末試験							
16週 後期				後期期	後期期末試験の解答と解説			わからなかった部分を把握し理解できる.			
モデルコス	アカリ	キュ	ラムの	学習	内容と到達	目標					
分類			分野		学習内容	学習内容の到達目標	西			到達レベル	授業週
						太陽系を構成する惑星の中に地球があり、月は地球の衛星であることを説明できる。			3	後1,後2	
						地球は大気と水で覆われた惑星であることを説明できる。			3	後3	
						陸地および海底の大地形とその形成を説明できる。			3	後4	
						地球の内部構造を理解して、内部には何があるか説明できる。			3	後4	
					ライフサイ エンス/ア ースサイエ ンス	マグマの生成と火山活動を説明できる。			3	後7	
			ライフサ エンス/: ースサイ ンス	サイ		地震の発生と断層運動について説明できる。			3	後6	
基礎的能力	自然科	学		ナイエ		地球科学を支えるプレートテクトニクスを説明できる。			3	後5	
						プレート境界における地震活動の特徴とそれに伴う地殻変動などについて説明できる。			3	後6	
						大気圏の構造・成分を理解し、大気圧を説明できる。			3	後11	
						大気の熱収支を理解し、大気の運動を説明できる。			3	後8	
						大気の大循環を理解し、大気中の風の流れなどの気象現象を説明 できる。			3	後11	
						海水の運動を理解し、潮流、高潮、津波などを説明できる。			3	後12	
評価割合											
試験		課	題	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合	it		
総合評価割合 80		0		20		0	0	0	0	10	0
基礎的能力 80		30		20		0	0	0	0	10	0
専門的能力 0)		0		0	0	0	0	0	
分野横断的能力 0		0		0		0	0	0	0	0	